学生に、「何を説くべきか」を少しは実践できたかな？

今年度の授業も、ほぼ終了。

「学生に自分は何を説くべきか、それを考えるのが教師の最初で最後」のようなので、次に類するような感想（抜粋）をたくさんいただくと、それを少しは実践できたと思っていいのかな？

これからの４月までの冬眠生活の間に、何を説くかを更に自分に問うてみたい。

・ビデオやプリントなどを使った授業でとても興味をもつことができました。その後（又は前）に先生のビデオについての話があり、そこでいろいろ考えさせられる部分がたくさんあったので、授業の進め方がとてもいいものだと思いました。

・授業には、いつも興味、意欲を持って受けました。たくさん考えさせてくれる点があり、家に帰ってからも考える事がありました。阿部さんが実際に経験してきた話を聞くからこそ、心に響くのだと思います。涙が出てくる時もありました。授業が受けられなくなるのはとってもさびしいけれど、私も人から頼られる阿部さんの様な人間になりたいと思いました。

・この授業を受けて感じることが沢山ありました。涙出たり、出そうになる事もありました。私には全然力がないなと思ったり、まだまだ私にだってできる！と思ったりしました。この授業で学んだ事、感じた事、見たビデオの内容は絶対に忘れたくないです。もし、私が辛いと思った時はこの授業を思い出して、自分に言い聞かせて頑張ります。とっても興味深い授業を毎回受けられて本当に良かったです。

・障害児保育とは、どうすればいいのか、その保護者への対応もどうすればいいのか、まだ自分の中で固まっていないけど、心の準備というか、逃げずに向き合っていこうとは決めました。半年間の授業を通して、すごく残るものが多い授業で、キレイな用語を並べる授業でなく、今の現状や裏の話までそのまま聞けて良かったです。

・始めは、この授業にあまり意欲的になれませんでした。それは、障害について知識がないゆえに、どう対応すれば良いか、教えてくれる授業だと思っていたからです。しかし、色んな話やビデオを通して、それは教わることではなく、自分で考えていくものだと分かりました。子どもや親と関わっていく上で、自分の考えの未熟さに気づいたこと、考える機会が増えたことが何よりもためになりました。これから生きていく上で、常に自分と向き合うこと、人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。

阿部幸泰　　（2007 年 1 月 31 日　記）